

活 汲 村 物 語

NO. 31

活汲村物語～津別町活汲第三 in 大正金時「石原 農場」

今回紹介する「石原農場」は国道240号線と美幌町津別境界町道208号線にある。豆作と言えば「小豆」「大豆」「手亡」など沢山あるが、「大正金時」の名人と皆が一目置く先生である。

「石原農場」は出身地が福井県で美幌村を経て、この地には昭和2年に入植した。現在は4代目正士さんに経営が引き継がれている。

豆作は馬鈴薯、甜菜、小麦との輪作体系を守るのと同種の豆が重ならないように組み合わせている。「大正金時」の一番の天敵は収穫時期の雨だ。雨で乾燥が悪いと色流れを起こし、規格外等級となる。これを防ぐには、刈り倒した豆を小束にしてニオ積みという作業をする。この作業は機械化の中で手間と根気のいる仕事だ。この作業がいやな人は石原農場の様な見事な色ツヤのある「大正金時」は出来ないのだ。三代目石原薫さんに話を伺うと「自信なんか持ってない。毎年毎年ビクビクしながらやっているよ。」とつれない返事が返ってきた。

この緊張と真剣さが素晴らしい「大正金時」にしているのだと感心させられます。

四代目正士さんは「この仕事は自分に合っている。春と秋が忙しいのだから、自分の考え方、やり方で経営出来ると思う。」

頼もしい若者である。(写真は「大正金時豆」)



やさい歳時記● ネットショップ店「ヤナセ農園」が営業中。

津別町ふるさと納税お返し特産品にヤナセ農園『ふるさと便野菜「活汲村物語」シリーズ』が掲載されています。津別町ふるさと納税にご協力頂きご愛顧の程、宜しくお願いたします。

検索は、[ふるさとチョイス](#) > [北海道](#) > [津別町](#) で閲覧できます。(写真は④トリモロシ)

